

KSKP

たびだち つうしん

出

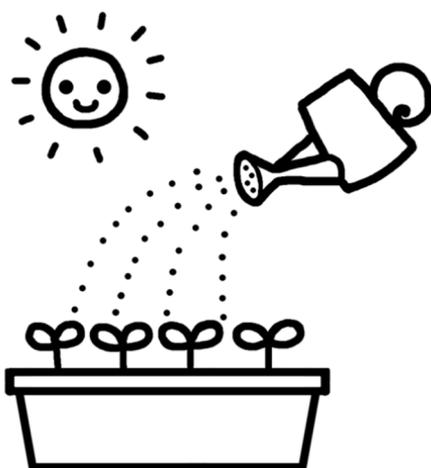
発

通

信

NPO法人 出発のなかまの会

175号



一九八四年 八月二十日 第三種郵便物承認
毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行

もくじ
目次

ちい ず 小さな「住まい」としてのグループホームを守れ	2
ボンバ BOMBA!	4
はじ リモート「どロン」始めました	5
しんぶん どんどん新聞より	6
かいごしょくいんしよにんしゃけんしゅう 介護職員初任者研修	7
よしのおんせんひがえ りょこう 吉野温泉日帰りドライブ旅行	8
しんしよくいんしよつかい 新職員紹介	9
こそだ にっき スタッフ子育て日記	10
ねんどそうかい し 2022年度総会のお知らせ	11
かつどう 活動のあと	12

小さな「住まい」としてのグループホームを守れ



昨年から国の社会保障審議会の障害者部会では、障害者の居住支援について議論が重ねられています。このなかで提案されたのが「通過型」グループホームで、ひとり暮らしを目指す障害者が期限付きの通過型グループホームで生活訓練をおこない、ひとり暮らしに移行するというものです。精神科病棟での長期入院からの地域移行や、入所施設からの地域移行をさらにすすめるための策として考えられたようです。加えて、現にグループホームで暮らす人のなかにひとり暮らしを望む人がたくさんおられるにもかかわらず、グループホームでその支援ができていないからというのも、「通過型」を創設する理由に挙げられています。通過型にまつわる一連の議論で疑問に思うところがふたつあります。ひとつはひとり暮らしを望んでおられるのに、なぜ共同生活の場で練習を始めるのかということです。初めからひとり暮らしのほうが良いのではないかと思うのです。もうひとつはひとりで暮らすことが最終ゴールなのかということです。ひとりで暮らすことができ初めて「じりつ」できたといわんばかりの、なにか偏った自立観に立っているように思うのです。このままでは障害の重い人だけがグループホームで暮らし、軽度の人にはひとりで暮らせるようになりましよう、と言われるようになるかもしれません。障害の重さだけではその人の生きづらさを十分に表すことができません。だれかと一緒に住むほうが安心する方もいるし、相談できるスタッフがいても安心材料になるでしょう。他人同士が住むグループホームで暮らすことは楽しいことばかりではありませんが、互いを認め合える豊かな生活の場になっています。

やはり「住まい」の場であるグループホームに「訓練」の発想を持ち込むことに大きな違和感があります。初めから出ていくことを目標とした住まいの場というはおかしい。それは訓練施設と位置づけられるものだと思います。ですから、グループホームの制度に通過型を創設することには絶対に反対です。5月18日には衆議院会館で院内集会をします。ZOOMでオンラインでも参加可能です。みなさんの声を国会に届けましょう。

今、グループホームは慢性的な人手不足、支援の質の維持、向上の課題、報酬の低さなど、運営面での課題から大型化に向かっているようです。しかし、障害者の暮らしを守るためには、グループホームを大型化しないこと、訓練施設にしないこと、あたりまえの暮らしを送ることができる小さな「住まい」の形を守ることが重要なのではないのでしょうか。

(カオリ・I)

グループホームの再編に反対する

緊急院内集会

障害者GH再編に反対！

グループホームを訓練施設にしないで！

2022年 5月18日(水) 12時開始

衆議院第2議員会館 第6会議室

(ZOOM / You Tube配信併用)

わたし ぬ わたし き
私たち抜きで私たちのことを決めないで！

昨年、厚生労働省は当事者の声を聞かずに、通過型グループホームを創設する案を出しました。これに対して、「グループホームの再編に反対する緊急ネットワーク」が呼び掛けたグループホーム再編に反対する署名活動では、6万8千筆を超える署名が集まりました。グループホームは障害者にとって大切な生活の場である住まいです。訓練の場ではありません。近年では、20人定員の大きなグループホームを作ったり、マンションから障害者グループホームを追い出すなど、障害者の暮らしの場が脅かされる事態が続いています。当事者と支援者の声を国に訴えるために、みなさんの力が必要です。一緒に声をあげてください！

ZOOMで自由に参加できます

<https://bit.ly/3urp9sQ>



ミーティングID:825 2375 6311

パスコード:102221

ボンバ BOMBA!

『すきっぷの隣^{となり たてもの}の建物^{しぶん}が自分^{つか}たちで使えるようになるらしい』そんな情報^{じょうほう}が入^{はい}ってきて2021年4月から始動^{ねん がつ しどう}した新プロジェクト。そこで何^{なに}をする?どんな場所^{ばしょ}にしたい?今^{いま}、課題^{かだい}となっている事^{こと}は何^{なん}だろう?やりたい活動^{かつどう}を実現^{じつげん}する為^{ため}には何^{なに}が必要^{ひつよう}となってくる?そこにつけるスタッフ^{かね}は?お金^{かなが}は?考え^{こと}なければいけない事^{こと}は盛り沢山^{もりたくさん}で、私^{わたし}たち新プロジェクトチーム^{しん}は互い^{たが}の時間^{じかん}を擦^すり合わせながら話し合^{はな}いを繰^あり返^くした。



話し合^{はな}いを繰^あり返^くしても中々^{なかなか}、決^きまらない。自分^{しぶん}たちが、こうしたい!という理想^{りそうぞう}像^{なん}は何となくチーム内^{ない}で合^あっていた様^{よう}に思^{おも}うが、それ^{こと}を具^ぐ体的^{たいてき}な内容^{ないよう}にしていく作業^{さぎょう}は大変^{たいへん}だった。ヘルパーステーション!人材^{じんざい}育成^{いくせい}の場^ば!当事^{とうじ}者^{しゃ}活動^{かつどう}!海外^{かいがい}の方^{かた}とのネットワークづくり!どんな活動^{かつどう}をするか多^{おほ}くの意見^{いけん}を出^だし合^あい最後^{さいご}は2つに絞^{しぼ}る事^{こと}が出来^{でき}た。2つに絞^{しぼ}れても、どっ^きちにするか決^きまらない。絞^{しぼ}った2つの事業^{じぎょう}案^{あん}を既^{すで}に取り入^とれて活動^いしている複数^{ふくすう}の事業^{じぎょう}所^{しょ}に話^{はなし}を聞^きき見^{けん}学^{がく}にも行^いった。見^み聞^ききた情報^{じょうほう}をもとにチーム内^{ない}で検^{けん}討^{とう}したが、どち^あらの案^{あん}も良^よい所^{ところ}が有^あり課題^{かだい}もあつた。周^{まわ}りの人^{ひと}たちにも話^{はなし}を聞^きき多^{おほ}くの人の知^ち恵^えを借^かりながら、ようやく決^きまったのは『当事^{とうじ}者^{しゃ}活動^{かつどう}の拠^{きょ}点^{てん}にしよう!』だった。

やっ^{こと}てい^ききたい事^{こと}が決^きまって、ほっ^{ひと}と一^い息^{いき}…する事^{こと}も出来^{でき}ず決^きめる事^{こと}は盛り沢山^{もりたくさん}!そして、また大^{たい}変^{へん}だったのは名^な前^{まえ}決^きめた。これ^{なかなか}が中^き々^き、決^きまらない。ど^いん^{けん}ど^きん^きで意^い見^{けん}を聞^きいてみようという事^{こと}で、い^なく^{まえ}つ^あか^ん名^あ前^んの案^{あん}をもつてい^おつた。そ^おこ^ひで多^ひくの票^{ひょう}を勝^かち取^とった名^な前^{まえ}がひとつあつた。それがボンバだ。



この名^な前^{まえ}で果^はたして良^よいのだろ^うかとチ^{ない}ーム内^{すこ}では少^とし戸^{まど}惑^ごいがあつたが、隣^{となり たてもの}の建^あ物^{たら}では新^かしい活^は動^じを始^さめて様^{さま}々^ざな意^い見^{けん}や色^{いろ}んな人^{ひと}達^{たち}が入^いり交^まじる、新^あしい風^{かぜ}を巻^まき起^おこす所^{ばしょ}になれ^ばと考^{かん}えていた^{ので}案^{あん}外^{がい}、合^あっているの^かもし^れない。

こうして2022年4月1日、BOMBAは開^{ねん がつ}所^{いた}した。この所^{ばしょ}がメソ^ンバーや支^し援^{えん}者^{しゃ}にとつて活^{かつ}力^{りよく}に繋^つがる所^{ばしょ}にな^りますよ^うに。

(ワカナ・K)

リモート「どロン」始めました



毎月第4金曜日の夕方に、就労している障害当事者を始め、
 当会の作業所以外で活動している方たちが松野農園に集まり、
 食事をしながら仕事の悩みや近況を話し合う「どロン」を開催
 していました。新しい環境になったり、職場が変わったりする
 と、楽しいことや悩んでいることなど聞いて欲しいことをその場

で話すことができ、わいわいと盛り上がっていました。コロナ禍の影響も有り、開催できたり、できなかったりと不定期開催になっていた「どロン」でしたが「リモートでやってみたら？」とアドバイスを頂き、開催してみることに。

どうなることかと心配していましたが、参加者にリモートでの開催を連絡し、リモート環境を整えていざ開催してみると、自宅できつろいで参加ができるのでリラックスしながら会話を楽しんでおられ、楽器などを演奏し歌を歌ったり、音楽に合わせてダンスを踊ったりとリモートならではのいいところもあり、盛り上がりを見せました。リモートで何度か開催し盛り上がったので、リモート環境が整っていない参加者やコロナの流行状況で参加をためらっている参加者のために、スタッフがスマホを持ってグループホームなどに出向いて参加してもらう方法も実践してみようと思っています。

参加者のなかには松野農園に集まって、みんなで食事をしながら会話を楽しみたい人や流行状況を踏まえ参加されない方もおられます。コロナ禍の状況で「出来ない」や「難しい」とあきらめるだけではなく、リモートならではの良さを活かし、現状でできることを模索し新しいことにチャレンジしていく心を持ち続け、これからも開催していけたらと思います。

(マサヒデ・H)



どんどん新聞 No.193 から一部抜粋しています

どんどん新聞

No.193



発行日 2022年 2月 14日
発行所 自立生活センター・どんどん
大阪府生野区田島1-10-30

tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749

◆ 急なバトンタッチでも大丈夫！

2021年9月21日(火) 場所: 守口オールケア学院

守口オールケア学院から講演依頼があり行ってきました！

K.Y. さんをご指名だったのですが、K.Y. さんが住むグループホームで前日に体調不良のメンバーがいて、大事をとってK.Y. さんもししぶしぶ講演をあきらめることに。

講演当日の朝に「どうしよう!？」という話になり、急遽Tさんにピンチヒッターをお願いし急いで車に乗り込み守口に向かいました。学院に着き、教室に向かうためにエレベーターに乗ろうとすると扉がすぐに閉まってしまい、扉に挟まれみんなで驚いて笑ってしまいました。

授業ではノリがいい受講生ばかりで、楽しい雰囲気が始まりました。

K.S. さんは小さい頃の話や今の仕事や趣味の話をしました。コロナのせいで老人ホームに住んでいるお母さんと会えていないことも話しました。

T さんはグループホームでの生活のことや野球の話をしました。六甲おろしを歌うと手拍子が始まり、みんなで盛り上がりながらニコニコ歌い切りました。講演後はお腹ペコペコで、みんなでカレーを食べました。

K.S. さんの感想

自分の生活話をしました。保育園のはなしをしました。

マンションの話をしました。いっぱいしゃべりました。たのしかったです。またいきたいです。

講演後、受講生から問い合わせがあり、作業所の見学に来てくれました。これからもどんどん講演をしてヘルパーさんを増やすぞ～！！

介護職員初任者研修

春は出会いと別れの季節ですが、このところ別れの方が多いような気がしています。

私たちの事業所では、つねに人手不足に悩まされており、募集しても・・・といった状況です。他の事業所の悩みも同じで、障害者だけでなく高齢者や子ども支援の事業所などが集まり、地域の課題に協同で取り組んでいる「地域共生ケア生野推進委員会」（以下共生ケア）でも優先課題となっていました。一方で、職業訓練の方でもコロナ禍での雇用が不安定で、働きたくても雇用がなくて困っている方が多くおられ、求職者支援訓練給付の要件が特例措置で緩和されたにもかかわらず、あまり活用されていないことが課題としてあり、なんとかそのマッチングができないかと「大阪職業教育協働機構（A'ワーク創造館）」と「共生ケア」が協議し、紆余曲折あったようですが、今年の2月に9人の受講生が集まり、介護職員初任者研修の開講となりました。

各事業所から何名か職員が講師として参加されています。私もその一人として受講生の前に立ちました。私は障害者の方と長く関わっていますが、思えば目の前のメンバーさんに振り回され、時にはぶつかり、一緒に時間を過ごしたりして何とかその方々と関係ができてきたかなと思います。介護の知識や技術よりもその人に向き合うことが大切で、ある意味、介護技術や知識は二の次でやってきました。



その私が何を語ろうかと思いつつ、介護職員初任者研修のテキストがあって、どの項目の話をするのかは決まっていたので、テキストに基づいて話をさせてもらいました。

持っている知識で話しましたが、自分自身の話も少ししました。目の前の利用者の人に寄り添うこと、付き合うこと、そこに面白さを感じられることが伝わればよいなと思っています。伝えることは難しく、緊張もあって余裕もなく、伝える力がまだまだ足りないところですが、それでも受講生の方は真剣に聞いておられました。真摯に向き合わなければならぬと思いました。

この初任者研修では、共生ケアのさまざまな事業所から色々な職員が話をされます。福祉の仕事に面白さを感じ、資格を取り、働く仲間になってくれたらと願っています。

（サトシ・M）

「吉野温泉日帰りドライブ旅行」

そんなタイトルをつけ新しい企画を試みた。Oさんはマスクをするのが難しく、コロナ禍前は月に一度のペースで出かけていた空庭温泉にずっといけていない。このコロナ禍でも楽しみを見つけようとの思いだった。「日帰り温泉」で調べ、昼食コースを注文すれば個室を利用し、温泉にも入れる吉野山の旅館を予約した。移動は混雑を避けてレンタカーを利用した。

2時間余りかけて吉野山に到着。急な坂道を上ると、趣のある玄関のずっしり重そうな木の看板に「芳雲館」の文字。目的の旅館に着いた。おかみさんらしき女性と番頭さんらしき男性が迎えてくれた。グループホームのメンバーOさんとKさん、それに支援者二人。とても静かな館内に案内され囲炉裏のある純和風の座敷でお茶と葛菓子を受けた。大きな和室の二間続きの部屋に案内され時間を忘れてしまいそうな空気に包まれる。大広間に移動し、用意された懐石料理を頂く。高そうな器に上品に盛り付けられたお料理。そしてその器の下にはガラス製のお膳。Oさんは食器をテーブルに強く叩きつけるように置くこだわりがあり、それで出入り禁止になったお店が何軒かある。食事が始まり、Oさんがお膳におこうとする食器を、支援者二人があわてて手で受けるさまを見ていたおかみさんもOさんのタイミングに合わせて手を差し伸べ、手に乗った器をすっと下げて下さった。コップに少しずつ何度もお水を注いでくれたりとまさしく神対応。お二人の姿に「癒されますね。天使ですね。」と言って下さり「次はガラスのお膳はやめときましょう。」と冗談交じりの笑顔。Oさん、Kさんのとてもくつろいだ表情とおかみさんの氣遣いに「絶対また来たい」と思った。



外出がままならない状況が続く中、2回目の予約の電話を入れた。おかみさんの弾むような声で「お待ちしています。お膳にはクッションを敷いておきますね。」と、うれしい言葉。実際に何うと今回も昼のお客は私たちだけで、前回と同じ部屋が用意されていた。



Oさんは同じ景色に安心され大広間にも迷う事なく移動された。お膳にクッション材が敷かれその上にしゃれたランチョンマットが敷いてあった。「完璧!!」と誰もが思った次の瞬間Oさんはそこは違う席に腰を下ろし、「えー!!」と皆で大笑い。お膳を入れ替え食事が始まると、Oさんはお膳をよけてテーブ

ルの上に食器を置きたいようで、Oさんが食器を置くたびに皆が慌てる光景は前回と変わらなかった。「テーブルクロスが要りますね。」とおかみさん。気の利いたジョークとお料理を堪能し貸切り状態の温泉にゆっくり浸かって帰路についた。

そして3回目の「吉野温泉日帰りドライブ旅行」、今回も昼間は貸切り状態。広間に並ぶテーブルのなかにひとつだけテーブルクロスが敷いてあった。お膳にはクッションとランチョンマット。Oさんに「どうぞ」とその席に座ってもらい食事が始まるとテーブルクロスではとても衝撃が吸収できないほど強く食器を置かれ、やはり皆があわてて手を差し伸べながらの食事となった。「そやなあ。テーブルクロスにもクッションが要るなあ。」とおかみさん。毎回感謝と感動でいっぱい。そして次回はきっとテーブルクロスの下にもクッションが敷かれているだろう。こうして回を重ねることで、知っていただく事が出来、近づく事が出来る。日常生活の中で外見や印象だけで「怖い」とか「大変」というイメージを持つ人もいる。メンバーひとりひとりの当たり前の権利と尊厳を守る為に近隣とのコミュニケーションを始め、関わる事、知ってもらう事が本当に大切だなあと思った。コロナ禍が続く状況ではあるが、これからも人との繋がりを求めているいろいろなところでどんどん出ていきたいと思う。

(ミカル・K)

新 職 員 紹 介



4月から働かせていただきます。菊池快斗です。

趣味はマンガを読むこと、お笑いを観ることです。ゲームをしたりイラストを描いたりするのも好きです。11月末からアルバイトとして働いていましたがまだ初めて経験することばかりですのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

スタッフ子育て日記

桜が咲き始めた3月に2人の子ども（兄妹）が、それぞれ小学校、幼稚園を卒業、卒業しました。

長女の幼稚園生活は、大半がコロナ禍のため、めいっばいに楽しむことはできなかったかもしれませんが、今の状況のなかで、工夫して楽しみを見つけるといった力はついたのではないのでしょうか。長男は学年が上がるにつれ様々な悩み、葛藤が生まれ、学校を休んだり、昼からしか行けなかったりと、本人も思い通りには行かない、楽しいことばかりではなかった学校生活だったでしょう。そのなかでも、委員の活動や運動会や発表会の練習は頑張りを続けたし、なにより学校を嫌いになることはなく、毎日、気持ちを整え登校しようとしていた姿は、力強く映りました。

学校の先生や病院、地域の協力機関のサポートには感謝しています。そして、毎日揺れ動く息子の気持ちを励まし、ともに歩んだ妻には心よりありがとうと言いたいです。

このような状況にはならなかった方が、学校生活でも楽しい思い出もいっぱいできたでしょう。ただ、ここで経験した、苦しみ悩んだ日々と、頑張りを続けて身につけた力は、今後の生活でも必ずどこかで出会う、逆境に立ち向かうときの力になると思います。

父親として頑張って2人の子どもを育てたと言え、家族に怒られるかもしれません。これから成長していくにつれ、それぞれの力で進んでいくことが今より多くなるでしょう。それでも家族として、楽しくうれしいことも、辛かったり、悔しかったりすることも分かち合いたいと思います。

最後に4月から希望と緊張を抱えながら新しい世界に進む2人に、「世界は広いので、恐れずに一歩踏み出す勇気を持って」と、父の大好きなプロレスラーが言っていたと伝えたいと思います。

(シンペイ・H)



2022年度総会のお知らせ

いつも当会の活動へご支援いただきありがとうございます。2020年度、2021年度の総会は、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、書面でのやりとりとさせていただきます。今年度は対面でおこないたいと思います。

下記の日程で、2021年度の活動をふりかえり、新たな活動をスタートさせる総会を開催いたします。皆さまにお会いできることを楽しみにしています。

日時： 2022年5月30日(月) 13時30分～14時30分

場所： 東成区民センター6階 小ホール (大阪市東成区大今里西3-2-17)

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください！

◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方

会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方

寄付金 年間3,000円以上

★認定NPO法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内・府内にお住まいの方)】を受けられるようになります。認定NPO法人として続けていくためには、年間3,000円以上寄付して下さる方が、100人以上必要です。ご支援、ご協力よろしく願いいたします。

◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方

購読料500円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※2022年1月17日から、ゆうちょ銀行の払込みサービス料金の改定により、寄付金をゆうちょ窓口及びATMから現金でお振込みいただく場合は、加算料金110円が払込人に請求されることになりました。

キャッシュカード・通帳(暗証番号が必要)から振込む場合は、加算料金はかかりません。ご負担をおかけすることとなりますが、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

活動のあと

1/4 内部研修(巽西 251 プロジェクト会議)	2/24 執行委員会
1/6 生野区相談支援事業所連絡会役員会	2/25 地域共生ケア生野推進委員会役員会/障大連運営委員会
1/7 グループホームスタッフ全体会議	2/28 緊急行動ネットワーク会議
1/12 生野区グループホーム連絡会世話人会/生野区学童期 子ども支援連絡会役員会	2/28~ 初任者研修講師
1/15 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)	3/2 第三者委員会
1/16 ILP(自立生活プログラム)講座【おしゃれ編】Eプロ ジェクト会議(どんだん)/みらくるクラブ【運動会】(舎利 寺小学校)	3/4 グループホームスタッフ全体会議
1/18 出発通信発送	3/5 生野小学校閉校イベント『地域のつながりは“ここ”に ある』
1/19 執行委員会/防災委員会	3/8~3/11 たびだち共働作業所、はたらく・つながる「ととりの 木」休所
1/20 生野区相談支援事業所連絡会	3/9 生野区学童期子ども支援連絡会役員会
1/24 障大連 連続研修会(虐待防止)参加	3/10 喀痰吸引等安全委員会
1/25 緊急行動ネットワーク会議	3/17 執行委員会
1/26 生野区 NPO 連絡会役員会	3/19 内部研修(発達障害勉強会)/子育てなんでも相談会(生野子 育て社会化研究会)
1/27 執行委員会	3/22 みらくるちっぷ おめでとう会
1/28 ドロン/地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員 会	3/23 生野区 NPO 連絡会研修 まちあるき
1/29 みらくる ゆーすと進路勉強会/内部研修(発達障害勉 強会)	3/25 ドロン/地域共生ケア生野推進委員会/障大連運営委員会
1/30 IKUNO サラダボウルプロジェクトマ化ストリー-の会 定例ミーテ ィング	3/25~26 みらくる ゆーすと合宿
2/2 内部研修(巽西 251 プロジェクト会議)	3/26 IKUNO サラダボウルプロジェクト さくらまつり交流会
2/3 どんだん講演(生野区相談支援事業所連絡会)	3/25~29 契約更新手続き
2/4 グループホームスタッフ全体会議	3/29 執行委員会
2/3~3/24 インターンシップ学生受入れ	3/31 はたらく・つながる「ととりの木」避難訓練
2/8 グループホーム避難訓練	4/1 生活介護事業所 BOMBA 開所/グループホームスタッフ 全体会議
2/9 生野区グループホーム連絡会世話人会/生野区学童期 子ども支援連絡会役員会	4/7 生野区相談支援事業所連絡会役員会
2/12 内部研修(発達障害勉強会)	4/13 グループホーム学習会/初任者研修職場見学/生野区学童期 子ども支援連絡会役員会
2/16 生野区 NPO 連絡会役員会	4/16 内部研修(発達障害勉強会)/子育てなんでも相談会(生野子 育て社会化研究会)
2/17 執行委員会	4/18 生野区相談支援事業所連絡会
2/18 ドロン/生野区相談支援事業所連絡会役員会	4/19 どんだんプロジェクト会議①
2/19 子育てなんでも相談会(生野子育て社会化研究会)/生 野区 NPO 連絡会セミナー「初歩からはじめる入管法」	4/20 生野区学童期子ども支援連絡会
2/20 Eプロジェクト会議(どんだん)/IKUNO サラダボウルプロ ジェクトマイヒストリー-の会定例ミーティング	4/21 消防設備等法定点検①
2/22 不登校・ひきこもり支援連絡会研修会/生野区学童期こ ども支援連絡会研修会	4/22 消防設備等法定点検②/ドロン/地域共生ケア生野推進委員 会役員会
2/23 みらくるクラブ同窓会【アスレチック】(ボウケンノモ リ OJI)	4/23 障大連絡会
	4/25 執行委員会/初任者研修職場見学
	4/26 どんだんプロジェクト会議②
	4/27 内部研修(生活介護職員研修)/生野区 NPO 連絡会

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください！

- ◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方
会費 3,000 円+通信送料 300 円 計 3,300 円
- ◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方
寄付金 年間 3,000 円以上
- ★認定 NPO 法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置
【所得税・個人住民税(大阪市内府内にお住まいの方)】を受けられるようになりました。
認定 NPO 法人として続けていくためには、年間 3,000 円以上寄付して下さる方が、
100 人以上必要です。ご支援、ご協力よろしくお願いいたします。
- ◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方 購読料 500 円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080
特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※通信の郵送がご不要の方はご一報ください。



編集後記

今年は桜の時期に雨が降ることが少なく、お花見が長く楽しめたように思います。日に日に暖かくなり、自宅にあるベンジャミンが新芽を出し、瑞々しいみどり色に変化していくのを葉水しながら見るのが毎朝の楽しみで「かわいいね～」なんて話しかけています。(マヤ・Y)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

〒544-0011
大阪市生野区田島1-10-30 たびだち共働作業所内
TEL 06-6758-6641
FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080
(特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp
ホームページ https://www.tabidati.jp/

750 部

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行
発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町二・二 東興ビル4階

頒価百円